



約35mからの塚本のロングシュート。地を這うシュートはそのままゴールネットに突き刺さった。



先制点となった原のボレー。ボールがネットに吸い込まれた瞬間、観客からどよめきが起った。
(斉藤卓也撮影)



駒澤大学2-1 順天堂大学

2つのスーパーゴール、その影には

【右】塚本の得点を祝福するイレブン

システムは互いに中盤をダイヤモンドの4-4-2、戦術はボールを奪ったロングボールをFWに出しカウターを狙う。似ている両チームだけに勝負を決めたのは突出した個の力だった。前半15分、ゴールキックを巻がお約束通りのバックヘッドでボールは後方に。そしてこれまたお約束通り巻を追い越し前でボールを待っているのは原一樹。ボールが来る刹那、原は振り返りゴールを見た。原はその一瞬でゴール右隅に蹴り込むことを決めていたという。ボールが来てからの速さとトラップの上手さは原のお家芸。ボールを自身の状態に胸トラップしボールを自らの支配下に置き右足で元々決めていたコースに向かって振り抜いた。その速さと上手さが相俟ったボレーをGKは反応できるはずもなかった。対して順大は、左SBの小宮山がドリブルでオーバーラップし、人数を掛けることによって

